

**授業のテーマ：**

ドイツ語圏の児童文学を特にグリム童話など伝承メルヘンの視点から考察

**授業の概要：**

ドイツ語圏の児童文学・伝承メルヘンについて、研究テーマの設定、研究資料の検索・入手方法、資料の分析考察、論文の作成のノウハウなどを講義・演習する。

今年度は特にプロイスラーの児童文学『クラバート』を伝承メルヘン『クラバート』や『魔法使いとその弟子』(ATU325)と比較しながら、考察する。

**学習の到達目標：**

この授業が博士論文作成のサポート体制の一助になれば、幸いである。

**授業計画：**

1. 伝承民話の比較研究法：地理歴史的研究法（柳田國男『日本昔話名彙』・関敬吾『日本昔話大成』・稲田浩二/小澤俊夫『日本昔話通観』・アアルネ＝トンプソン＝ウター『民間説話のタイプ』）
2. 物語素材の検索方法：図書館での文献検索、インターネットによるコーパスの検索
3. 『魔法使いとその弟子』(ATU305)のモチーフ構成
4. インド起源説（ベンファイ）、オリエント起源説（リウクマン）
5. グリム童話『泥棒とその親方』(KHM68)
6. ベヒシュタイン童話『化け比べ』(DMB35)
7. プロイスラー童話『クラバート』
8. ストラパローラ『親方ラッタチオ、仕立屋』
9. 日本の昔話『文福茶釜』
10. 民間伝承『魔法使いとその弟子』と児童文学『クラバート』の比較考察

**評価方法：**

- |                                 |          |
|---------------------------------|----------|
| (1) 授業への取り組み姿勢（毎回の授業カードに感想等を記入） | 評価割合：30% |
| (2) 数回の小レポート                    | 評価割合：30% |
| (3) 最終レポート                      | 評価割合：40% |

**テキスト：**

テキスト：プリント教材を適宜、配布する。

文献リストは、竹原のホームページにて公開している。

<http://web1.kcn.jp/takehara-folklore/bunken1.htm>

**備考**

授業は講義方式であるが、演習方式も採り入れるので、学生諸君の積極的な参加を望む。